

システム・ダイナミクス学会日本支部  
2010年度 第1回会員総会  
開催報告書

開催期日:2010年4月24日(土)

16時45分～17時30分

開催場所:学習院大学 南3号館104教室

**議長**

JSD会長 森田道也

**議題**

1. 2009年度決算報告:承認事項 会長
2. 2009年度事業報告:報告事項 事務局長
3. 2010・2011年度会長選挙結果の報告:報告事項 事務局長
4. JSD規約の改訂:承認事項 会長
5. 退任の挨拶 森田道也会長
6. 当選証書交付 森田道也会長から内野明新会長へ

————— 議長交代 —————

7. 就任の挨拶 内野明会長
8. 2010年度役員選出:承認事項 会長
9. その他 事務局長

## 【総会成立条件】

JSD事務局

### 1. 2010 年度 JSD総会提出資料に関する理事会議決 理事会

- (1) 期間 4月9日～23日
- (2) 形態 理事会 MLによる電子理事会
- (3) 出席者: 森田道也(会長)、山内 昭(副会長)  
以下理事: 松本憲洋、内野明、海老根敦子、栗本英和、近藤史人、  
田中伸英、蓮尾克彦、明神知、
- (4) 欠席者: 小池昇司、渡部淳一、福田敦、山口 薫
- (5) 議事  
2009 年度決算報告および事業報告
- (6) 結果  
理事会メンバーの出席者10名全員の賛成を得て、提出案が承認された。

### 2. 2010 年度 JSD総会出席者

- (1) 出席(予定)者  
山内昭,内野明,大迫尚司,坂倉省吾,松本憲洋,森田道也,山口庸一,明神知,  
田中伸英,新部昭夫,渡邊恵,小池昇司,小川貴史,井上高正,川田恒康,福田敦,  
佐保田英司,石坂哲宏,西村真太郎,森山敦司,山下隆之,佐藤安弘,松尾諭,劉東岳,  
池下英典,浅井俊克,市川庄司,伊藤良之,渡部淳一,鈴木元太  
(以上30名)
- (2) 委任状の電子メール送信者  
小林秀徳,池田誠,和泉潤,因藤信之,落合以臣,熊澤光正,鈴木信幸,竹内智,  
豊島雅和,西嶋尚彦,野田英志,吉川道弘,近藤史人,雨宮隆,神崎広史,山口薫,  
海老根敦子,福島史郎,福良博史,重野芳人,西岡太郎,柏原秀明,細川敏宏,  
古川忠始,重藤進二,佐藤均,野田昭司,堀野聡,栗本英和,伊東英幸,岡村誠,  
高橋信補,嶋崎真仁,角谷裕司,刈谷剛,野口良造,廣野雄飛,隈部和弘,有村幹治,  
上田廣,堀弘幸,田中正敏,小山茂,小早川悟,岩尾詠一郎  
(以上45名)
- (3) 結論  
出席者と委任状送付者の合計が<sup>6</sup>(75人)  
2009年4月1日時点の会員の議決権者が<sup>6</sup>(137人)  
定足数(議決権者の1/3)が<sup>6</sup>(46人)  
出席者と委任状送付者の合計が定足数を越えており、総会は成立した。

## 【会員状況】

<u>2008 年度末会員数</u>	126 人(2009 年 3 月 31 日現在)
<u>2009 年度末会員数</u>	102 人(2009 年 6 月 30 日現在)
<u>2010 年度当初会員数</u>	137 人(2010 年 3 月 31 日現在)

## 1. 2009 年度本部役員

### 1. 1 運営組織

会長 : 森田道也

副会長(会長補佐): 山内 昭

総務担当理事(Executive Director): 松本憲洋

国際担当理事(International Society Liaison): 山口 薫

JSD 研究会(首都圏)理事: 渡部淳一 (特別に、小林秀徳顧問が管掌)

JSD 研究会(全国区)理事: 栗本英和、小池昇司

JSD 学会誌理事: 福田敦、内野明、海老根敦子、田中伸英、森田道也

監事: 内山 章、夏目真一

---

事務局: 松本憲洋(事務局長)

理事・事務局担当幹事:

近藤史人(HP の運営・管理)、蓮尾克彦(会計)、明神知(会員管理・ML 運営)、

小池昇司(JSD 研究会連絡)、渡部淳一(JSD 研究会連絡)

### 1. 2 顧問

坂倉省吾先生

小林秀徳先生

### 1. 3 担当幹事

事業推進において担当理事を補佐する幹事を、各担当責任者の要請に基づき、会長が継続して委嘱した。

#### (1) JSD研究会(首都圏)

藤本ヒトシ

#### (2) JSD研究会(全国区)

西川太一、福島史郎

#### (3) JSD学会誌編集委員会

石坂哲弘 Atit Tippichai 岡村誠 谷亮太 池下英典 鈴木元太

## 2. 2009 年度収支決算書

(2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

	2009年度予算額	2009年度決算額
<b>収入の部</b>		
前期繰越金	2,132,157	2,132,157
個人会費	500,000	789,000
賛助会費	50,000	100,000
出版物売上	100,000	36,000
雑収入	0	1,224
当期収入合計	650,000	926,224
<b>収入の部合計</b>	<b>2,782,157</b>	<b>3,058,381</b>
<b>支出の部</b>		
通信費	100,000	43,510
印刷費	100,000	67,200
事務用品費	10,000	11,401
講師謝金	50,000	0
交通費	5,000	0
雑費	30,000	9,409
会議費	10,000	30,560
研究会(首都圏)補助費	50,000	50,000
研究会(全国区)補助費	50,000	50,000
研究分科会補助費	50,000	0
アルバイト謝金	20,000	0
学会誌印刷費	400,000	162,750
前年度未処理分	0	0
事務所賃貸料	24,000	24,000
当期支払合計	899,000	448,830
次期繰繰り越し	1,883,157	2,609,551
(現金残高)		103,118
(預金残高)		2,506,433
(未払い金)		0
<b>支出の部合計</b>	<b>2,782,157</b>	<b>3,058,381</b>
2010年3月31日	理事(会計担当)	蓮尾克彦
2010年3月31日	理事(総務担当・事務局長)	松本憲洋 
上記の会計について監査の結果、適正であることを認めます。		
2010年4月12日	監事	内山 章 
2010年4月15日	監事	夏目真一 

### 【結果】

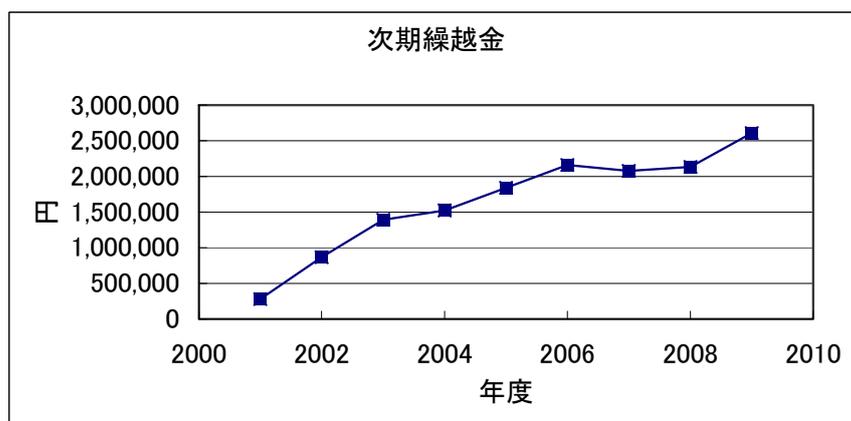
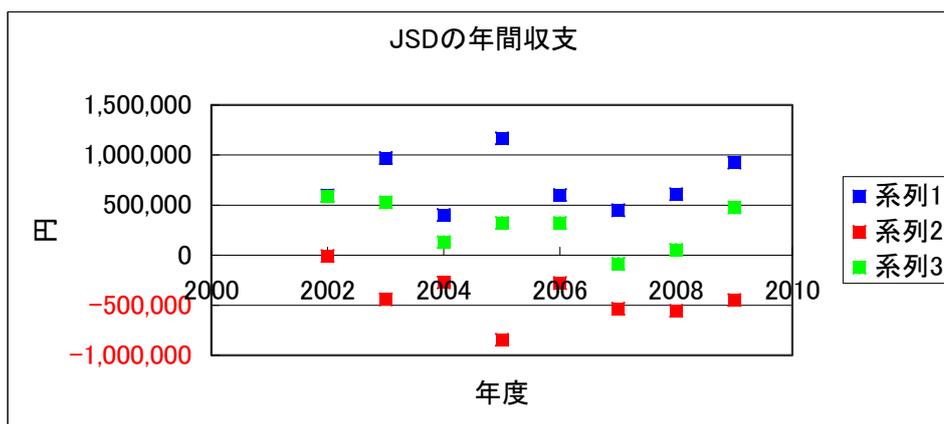
上記の 2009 年度の決算書が提出され、満場一致で承認された。

# 【決算書説明資料】

## JSD収支履歴

2009/7/14

年度	次期繰越金	年間収入	年間支出	年間収支	NOTE	会長	事務局長
2001	280,498				1/1-12/31	小林秀徳	末武 透
2002	865,058	594,000	-8,440	585,560	1/1-12/31	小林秀徳	松本憲洋
2003	1,393,623	970,617	-442,052	528,565	1/1-12/31	小林秀徳	松本憲洋
2004	1,522,745	402,049	-272,927	129,122	1/1-12/31	森田道也	松本憲洋
2005	1,841,123	1,166,075	-844,197	321,878	1/1-3/31	森田道也	松本憲洋
2006	2,161,844	600,557	-279,836	320,721	4/1-3/31	森田道也	松本憲洋
2007	2,077,071	449,469	-534,242	-84,773	4/1-3/31	森田道也	松本憲洋
2008	2,132,257	610,262	-555,076	55,186	4/1-3/31	森田道也	松本憲洋
2009	2,609,551	926,224	-448,830	477,394	4/1-3/31	森田道也	松本憲洋



### 3. 2009 年度事業報告 (2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

#### 【結果】

以下の“3. 2009 年度の事業報告”が説明されたが、特別な質疑はなかった。

#### 3. 1 JSD 研究会

- (1) 首都圏 : 6回を予定したが、開催することができなかった。  
担当 小林秀徳(顧問) 渡部淳一(理事) 藤本ヒトシ(幹事)
- (2) 全国区 : 1回を予定し、2009年11月に京都で、同志社大学ビジネススクールのSDグループと共催で開催した。詳細は、4. 1を参照のこと。  
担当 栗本英和(理事) 小池昇司(理事) 福島史郎(幹事) 西川太一(幹事)

#### 3. 2 学会誌の発行

- 発行号数 : 9号
- 発行時期 : 2010年6月に発行の予定で準備を進めている。詳細は、4. 2を参照のこと。
- 査読者 : 海老根敦子(駿河台大学)、内野明(専修大学)、山口薫(同志社大学)、渡部淳一(法務省)、竹内智(山梨大学)、辻稔郎(大阪国際大学)、富樫慎一(秀明大学)、落合以臣(株式会社ジョンクエルコンサルティング)、和泉潤(名古屋産業大学)、野田英志(森林総合研究所)、石橋整司(東京大学)
- 担当 : 編集委員長 福田敦(理事)  
編集委員 内野明(理事) 海老根敦子(理事) 田中伸英(理事)  
森田道也(会長)  
編集担当幹事 石坂哲弘 Atit Tippichai 岡村誠 谷亮太 池下英典 鈴木元太

#### 3. 3 研究分科会の活動促進

- 2つの研究分科会が開設された。
- 以下に示す2つの研究分科会の活動報告についての詳細は、4. 3と4. 4を参照のこと。  
「ビジネス・プロセス・モデリング研究分科会」(主査:森田道也 幹事:松本憲洋)  
「ダイナミックシステム・モデリング研究分科会」(主査:近藤史人 幹事:小池昇司)

#### 3. 4 カンファレンスの開催 担当:全役員

- (1) JSD カンファレンス2009 in 名古屋  
統一テーマ:百年に一度の経済危機を克服する持続可能なマネジメント  
期日・場所:2009年5月23日 10時20分～18時 名古屋大学環境総合館  
発表件数:12講演  
担当:カンファレンス準備委員会(全国区研究会担当と事務局の合同)  
参加者数:60人(会員32名、非会員28名)  
詳細は、2009年度総会報告書添付資料(P12)を参照のこと。
- (2) JSD カンファレンス2010  
主題:混迷する社会の進路を切拓く  
期日・場所:2010年4月24日 13時～17時 学習院大学南3号館104教室  
発表件数:5講演と1特別セッション  
担当:カンファレンス運営委員会(JSD事務局)  
参加者数:\_\_\_人(会員\_\_\_名、非会員\_\_\_名)  
詳細は、4. 5を参照のこと。
- (3) 名古屋展示会  
展示会名:COP10 生態系シミュレーションとシステムダイナミックス  
期日・場所:2010年4月15日～20日 名古屋市“ランの館”  
担当:JSD-BPM&DSM研究分科会(展示会代表者:小池昇司理事)  
詳細は、4. 6を参照のこと。

### 3. 5 System Dynamics Society などでの国際交流の促進 担当:国際担当理事 山口薫

ソウル大会事務局からの連絡もなく、SDS 参加報告書に追加する内容もないので、昨年 ML で報告した SDS 参加報告書を今年度の事業報告書とする。  
ソウル大会事務局等から新しい情報が入り次第、ML で会員に伝達する。  
詳細は、4. 7を参照のこと。

### 3. 6 会員管理・ML運営 担当:明神知理事

会員管理については、新会員の登録、退会者の削除、住所やメールアドレスの更新などの名簿管理と、メーリングリスト(以下 ML)の追加・更新管理とを一体として行った。  
この会員名簿は、事務局 ML 中のブリーフケースに保管し、事務局内で共有しているが、個人情報管理の観点から一般会員には公開していない。  
新規入会に関しては、理事会への入会承認の問い合わせを行い、1週間後に異論がなければ承認とし、入会者に JSD の概要説明などをメールにより送付した。  
それと併行して入会者に直前2号分の JSD 学会誌を郵送した。  
ブリーフケースに保管している名簿には、年会費の記録欄を設けており、会計担当が同一の名簿上で個人会費の入金管理も行っている。

以上の常設の ML の外に、カンファレンスや学会誌の担当者向けに、新規の暫定的な ML の開設と目的終了後の削除も行った。  
また、不特定多数からの事務局への問い合わせ ML である jsd-renraku に関しては、多数のスパムメールが届くが、一般会員へは弊害が及んでいない。  
管理担当者が、スパムメールが多すぎて困ると感じる程度までになれば、名称を変更するといった原始的方法によって対処している。

### 3. 6 SD の普及のための Web 公開・講習会など 担当:近藤史人理事

国内向けの情報更新は迅速に対処し、適切な広報活動を実行した。  
ただ、2010年のSDSソウル大会向けの英文ホームページの整備については、可能な作業時間が執れなかったため作業を取り止めた。

### 3. 7 運営体制 担当:事務局長・総務担当理事 松本憲洋

カンファレンス、研究会、学会誌発行の主要な事業を、担当グループが自律的に実施する体制で、今年度も計画した事業の推進に取り組んだ。  
しかし、一部の担当グループでは、十分な活動が実行されなかったのは残念である。

## 4. 2009 年度事業報告 詳細説明資料

### 4. 1 JSD研究会(全国区)

研究会名称	JSD研究会(全国区)	番号	講演者	所属	講演題名
期日・時刻	2009年11月21日 10:00~17:30	1	福島史郎 山口 薫	同志社大学 大学院	企業の環境経営は、マクロレベルの持続可能性と整合するか？ ーサステナブル経営指数の開発とSDによるその構造分析ー
場所	同志社ビジネススクール 寒梅館(京都)	2	切東美子	同志社大学 大学院	医師の需給バランスについて2.「なぜ医師の不足が起ったか？」
出席者数	25名	3	明神 知	株式会社 オージス総研	Enterprise Architecture as StrategyをSDで読み解く ー百年アーキテクチャに向けたアプローチー
担当役員・幹事	福島史郎, 小池昇司, 栗本英和, 西川太一	4	辻 稔郎	大阪国際大学	SDによる個別企業の付加価値計算と社会会計
		5	小池昇司	グループモ デラート	財務・非財務連結モデルを活用した経営改善事例
		6	佐藤安弘	同志社大学 大学院	経営判断に関する情報の遅れが企業業績に いかに決定的な影響を与えるのか？ ーシステムダイナミクスによる企業経営の ジェネリックモデル分析ー

#### 4.2 編集委員会活動報告 : 編集委員長 福田敦(理事)

##### 1. 編集委員会の設置

編集委員会を昨年度に引き続き設置した。編集委員長、編集委員、編集委員会担当幹事は以下の通り。

- (1) 編集委員長  
福田敦
- (2) 編集委員  
内野明(理事)、海老根敦子(理事)、田中伸英(理事)、森田道也(会長)
- (3) 編集委員会担当幹事  
石坂哲弘、Atit Tippichai、岡村誠、谷亮太、池下英典、鈴木元太

##### 2. 学会誌 8 号

研究論文として 7 編、研究ノートとして 1 編を採択し、学会誌 8 号を平成 21 年 9 月 7 日に発行した。

##### 3. 学会誌 9 号

- (1) 学会誌の審査手順に則り学会誌研究論文を公募し、6 編のアブストラクトの投稿があり採択した。最終的には研究論文として 3 編の及び研究ノートとして 1 編の投稿があり、現在審査を行っている。
- (2) カンファレンスで発表した論文の中から学会誌研究論文への投稿希望があった場合、昨年と同様に学会誌研究論文推薦委員会が重要と認めた論文を審査する。なお、学会誌論文推薦委員は、編集委員長が、学会参加者を中心に委嘱する。
- (3) 学会誌の印刷業者を選定し、6 月上旬に発行予定である。

#### 4.3 研究分科会の活動報告(1)

研究分科会名称	DSM研究分科会
主査	近藤史人
幹事	小池昇司
メンバー	近藤史人、小池昇司、小川節男、栗本英和、西川 太一、中野 まり絵、手塚博之、永田紘子、中野梓、佐藤均
活動報告	システムシンキングトレーニングブックのシステム原型をテーマに定性モデル、定量モデルの作成の演習を通じて、システム思考とシステムダイナミックスのモデリングの技術を習得することを目的として活動を行った。システム原型の演習だけでなく、JALをテーマにした財務会計のモデルや楽器販売のマーケティングモデルの研究、微分方程式のモデルによるランチェスターの2次則などの研究もおこなった。

期日・時刻	09年7月25日15:00~18:00	番号	講演者	所属	講演題名
場所	名古屋大学情報文化学部	1	近藤史人		自己紹介と研究分科会に対する要望
出席者数	14	2	小池昇司		SDの基本技術、アーキタイプのモデリング演習

期日・時刻	09年10月31日15:00~18:00	番号	講演者	所属	講演題名
場所	名古屋大学情報文化学部	1	小池昇司		企業の盛衰と財務・会計指標
出席者数	12	2	近藤史人		楽器販売のアップセリング、クロスセリングのモデル

期日・時刻	09年12月12日15:00~18:00	番号	講演者	所属	講演題名
場所	名古屋大学情報文化学部	1	小池昇司		企業財務会計モデルと経営の見える化及びその活用
出席者数	10				

期日・時刻	10年2月27日15:00~18:00	番号	講演者	所属	講演題名
場所	名古屋大学情報文化学部	1	小池昇司		生態系のモデリング演習。
出席者数	5	2	近藤史人		楽器販売のモデリング演習

期日・時刻	10年3月27日15:00~18:00	番号	講演者	所属	講演題名
場所	名古屋大学情報文化学部	1	西川太一		微分方程式のモデル
出席者数	12				

#### 4. 4 研究分科会の活動報告(2)

研究分科会名称 ビジネス・プロセス・モデリング(BPM)研究分科会

主査 森田道也(学習院大学)

幹事 松本憲洋(POSY Corp.)

メンバー 伊藤良之、浅井俊克、佐保田英司、福田信孝、明神知、小池昇司、近藤史人、山口庸一、蓮尾克彦、重藤進二、高橋信補、渡邊恵、西岡太郎、山根学、秋元敏、劉東岳、入江夕梨花、加来裕章、加藤修明、及川資朗

活動報告 本研究分科会は、2002年7月から活動を開始し、毎年更新してきた。基本的な方針は、研究対象をビジネス領域に設定することと、システムダイナミクスはメソッドであることから、参加者の所属するビジネス領域で活用できる応用研究に取り組む事である。今年度もその基本方針の下で各人が研究を進め、途中経過を含む成果を研究分科会で発表して、参加者が熱心に討論した。研究成果については、JSDカンファレンス2010で2本の論文を発表した。

期日・時刻	2009年6月24日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	松本憲洋	POSY Corp.	サプライチェーンの最適化に関する提言
出席者数	14人	2	出席者		2009年度の各自のテーマとSDに関連した関心事項について

期日・時刻	2009年7月15日 18時30分-20時30分	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	森田道也	学習院大学	一気通貫経営実現のためのモデル力を考える
出席者数	16人	2			暑気払い

期日・時刻	2009年9月16日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	秋元敏	株式会社プロフェッサ	IT企業における現状モデルと今後の方向性モデルの考察
出席者数	15人	2	蓮尾克彦	人材育成コンサルタント	見えてきた企業内人材育成の課題

期日・時刻	2009年11月18日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	佐保田英司	日立CP	装置保守部品の適正手配をSDで検討する
出席者数	11人	2	小池昇司	中小企業経営支援協議会	企業財務会計モデルと経営の見える化及びその活用

期日・時刻	2009年12月16日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	明神知	オージス総研	百年アーキテクチャに向けたアプローチ
出席者数	11人	2			忘年会

期日・時刻	2010年1月20日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	蓮尾克彦		エージェントタイプのタクシー配車モデル
出席者数	9人	2	小池昇司	中小企業経営支援協議会	展示会名 : COP10 生態系シミュレーションとシステムダイナミクス

期日・時刻	2010年2月24日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	浅井俊克	大和総研	システムダイナミクスによる情報活用組織のモデル化
出席者数	9人	2	佐保田英司	日立CP	日常的な太陽熱の伝導についてSDツール(Studio8)を用いてシミュレーションしてみる

期日・時刻	2010年3月18日 18時30分-21時	番号	講演者	所属	講演題名
場所	学習院大学 東2号館13階第3会議室	1	佐保田英司	日立CP	日常的な太陽熱の伝導についてSDツール(Studio8)を用いてシミュレーションしてみる
出席者数	6人	2	山根学	学習院大学	作成中のロジスティック・モデルに関する討論
		3			謝恩会

#### 4.5 JSDカンファレンス2009

開催期日:2010年4月24日(土) 13時~17時30分

開催場所:学習院大学 南3号館-104教室

主題:“混迷する社会の進路を切拓く”

参加者:総数 46人(会員31名、非会員15名)

プログラム:

- 13:00 森田道也(JSD 会長・学習院大学)  
JSD カンファレンス 2010 開会の挨拶
- 13:10 山下隆之(静岡大学)  
地域マクロ経済の SD シミュレーション
- 13:40 明神 知(株式会社 オージス総研)  
モデルベースIT投資マネジメントによる百年アーキテクチャ構築  
~システムダイナミクスによるIT投資マネジメント構造分析~
- 14:10 Jose A. D. Machuca (The University of Seville)  
森田道也(学習院大学)  
特別セッション(Special Session) :SD で壁を超える
- 14:55-15:05 休憩
- 15:05 小川貴史(筑波大学大学院)  
システムダイナミクスによる DRAM 市場における周期的変動の考察  
~モデル構築と基本メカニズム~
- 15:35 小池昇司((社)中小企業支援協議会)  
企業の財務会計情報の流れのSDモデルと企業価値を上げる経営改善への活用
- 16:05 佐藤安弘(同志社大学大学院)  
経営判断に関する情報の遅れが企業業績に如何に決定的な影響を与えるのか?  
-システムダイナミクスによる企業経営のジェネリックモデル分析-
- 16:35 松本憲洋(JSD 事務局長・POSY Corp.)  
JSD カンファレンス 2010 閉会の挨拶

#### 4.6 名古屋展示会

報告者 名古屋展示会委員長 小池昇司

2009年度の事業計画には含まれていなかったが、下記の趣旨に対して会長に実施を裁断していただき、未使用となっていた研究会予算等を充当して展示会を開催した。

1. 趣意:平成22年10月、名古屋市においてCOP10(生物多様性条約第10回締結国際会議)が開催される。複雑な生態系の動きの検討にはSDの活用は有効な手段である。  
COP10への一般市民の意識の高まりの機会をとらえて生物多様性等に関する話題をSDにより説明し、SDに対する一般市民の認識を高めることを目的とする。
2. 展示会名:COP10 生態系シミュレーションとシステム・ダイナミクス
3. 期日・場所:2010年4月15日~20日 名古屋市“ランの館”
4. 担当:JSD-BPM研究分化会 & JSD-DSM研究分科会(展示会代表者:小池昇司理事)
5. 組織:委員長(小池昇司)、副委員長(近藤史人)、企画支援(明神知)
6. 集客手段:名古屋市の広報手段への掲載、開催案内ハガキ、ポスター、マスコミへの投げ込み

## 7. 開催結果:

(1) 展示物: 生物多様性・生態系・環境(11点)、ラン関連のSDモデル(1点)、SD紹介(1点)

「COP10 生態系シミュレーションとシステム・ダイナミクス展」展示一覧		
	タイトル	出展者
1	米国のミティゲーションバンキングシステムを対象としたSDによるシナリオ別シミュレーション分析	伊東英幸(国立大学法人名古屋大学エコトピア科学研究所)、福田敦(日本大学理工学部社会交通工学科)
2	地域バイオマスエネルギーと次世代自動車用エネルギーの需給予測	野口良造(筑波大学大学院生命環境科学研究科)・小山瑞樹(宇都宮大学大学院)
3	アオコの捕食実験における個体群動態と数理モデル解析	榎本隆寿*, 雨宮隆**, 伊藤公紀*** (横浜国大院環境情報学府*, 環境情報研究院**, 工学研究院***)
4	石炭燃焼廃棄物による土壌改良: 持続可能な環境問題対策事業モデル	山口薫(同志社大学同志社ビジネススクール)、新田義孝(電力中央研究所, 現: 四日市大学環境情報学部)、横山隆寿(電力中央研究所)、加藤貴義(京都大学)
5	漁獲管理のためのモデル	小池昇司(JSD-DSM研究分科会)
6	森林とシカ個体群の統合管理モデル	小池昇司(JSD-DSM研究分科会)
7	雑草と作物の競合モデルの活用例	小池昇司(JSD-DSM研究分科会)
8	森は海の恋人(広葉樹林と牡蠣養殖の関係)	松本憲洋(Posy社)
9	生態系のモデルと経済界のモデル	近藤史人(JSD-DSM研究分科会)
10	さとうきび生産と製糖工場のシミュレーションモデル	樽本祐助(九州沖縄農業研究センター)
11	地域連携による里地里山における生物多様性の保全と地域価値の向上 ・生態系-生息環境分野・社会経済分野 ・生態系-野生動物分野・システム計画分野	梶光一・戸田浩人・小池伸介・大橋春香・桑原孝史・齊藤正恵・角田裕志・弘重穰・堀江玲子(東京農工大学フロンティア農学教育研究センター野生動物管理システム推進室)
12	ランの生態モデル	小池昇司(JSD-DSM研究分科会)
13	システム・ダイナミクスの紹介	JSD-DSM研究分科会
14	共生・相利に関する植物画	木村絢子、加古川利彦、小池昇司(ホタルアート遊花)

(2) 広報手段: JSD ホームページと会員向けメール、「広報名古屋」(市内各家庭へ配布)、ランの館の広報物とホームページに掲載、案内はがき設置、ポスター掲示、マスコミによる集客(4/15(木) 7:45NHK-TVで紹介, 午前中取材、12:15と17時台NHK-TV放映, NHKラジオで2回, 4/15(木) 中日新聞、毎日新聞取材。4/16(金) 中日新聞掲載、SDを紹介。

(3) 会場担当者: 小池昇司、近藤史人、榎本隆寿、松本憲洋、明神知が交替で当番。

(4) 来訪者: 期間中の入場者数は1683名であったが展示室への来訪者はその約3%、50名であった。50名の内訳は、SDをご存知の人は約20名、環境に関する活動をしている人が約20名であり新聞とTVから情報を得たという。案内はがきにより来訪したビジネス関係は5名、行政関連の人は5名であった。

## 4. 7 System Dynamics Society 出席報告

### 第27回 SD 国際会議に参加して

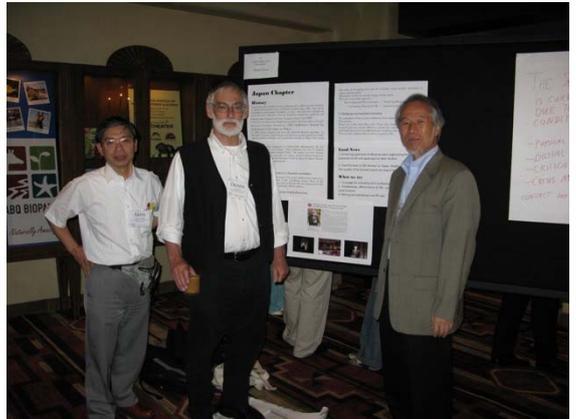
報告者: 山口 薫 (JSD 国際担当理事・同志社ビジネススクール教授、Ph.D.)

報告期日: 2009年9月7日

## 1. 参加者

第27回システムダイナミクス国際会議 (The 27th International Conference of the System Dynamics Society) が、7月26日(日)から31日(金)まで、米国ニューメキシコ州アルバカーキ市で開催されました。同市は、シカゴからカリフォルニアのサンタモニカを結ぶ旧国道、ルート66に沿いに発展してきた町で、会場のホテル・アルバカーキは、ナバホインディアン原住民やスペイン・メキシコ文化の影響が色濃く残る旧市街 (Old Town) に隣接していました。ホテルを一步外に出てオールドタウンに向かうと、そこはまるで米国とは異文化な空間にタイムスリップしたような感覚におそわれます。ある参加者は数日間かけてシアトルから車で、ある参加者は東部から3週間かけて自転車でツーリングを楽しみながら、それぞれルート66を利用してアルバカーキにたどり着いたそうです。

今回の会議は同市にある、ロケットサイエンティストが結集するサンディア国立研究所 (Sandia National Laboratories) の全面的支援で開催されました。(Sandia とは スペイン語でスイカ、Watermelon という意味で、同市にある1万フィートを超える高山がスイカの形をしているところから由来したとか)。ちなみに火曜日夜の400名を超える恒例の大宴会で隣に同席した一見「おじさん風」の方は、パークレーで物理の学位を取得し、その後30数年同研究所で、核分裂等の研究に従事してきた科学者でした。地球温暖化に疑問を呈している、国内でも著名なアラスカ大学の赤祖父俊一先生とは長年のお付き合いだそうです。月曜日のアルバカーキ市主催のレセプションでの市長のメッセージによると、同市は「市民あたりの Ph.D 博士号の比率」が全米2位だとか。



会議は例年の5日間(日～木)にプラスして、今回はプログラム委員会(会長:ワシントン州立大学アンディ・フォード教授)の新企画により、特別ボーナスデーが金曜日に追加され、計6日間にわたる長期のスケジュールとなりました(そのうちSDの研究報告は月～水の3日間)。参加者は44カ国、478名。前回のアテネでの会議は48カ国386名でしたから、今回は参加者が約100名が増加したことになります。そのうち、新規参加者は172名(36%)で、学生の参加者は105名(22%)でした。

日本からの参加者は、内野 明(専修大学)、福島 史郎(同志社博士課程、オムロン)、小田理一郎(チェンジ・エージェント)及び筆者の4名。昨年度の2名に比べると倍増(!)ですが、今回も寂しい限りで、少なくとも10名ぐらいは参加してほしかったです。ちなみに来年度SD国際会議開催予定の韓国からは12名が参加し、会場での存在感もなかなかのものでした。

## 2. 研究報告

会議前日の日曜日に定番となっている Ph.D. Colloquium で、日本国際賞受賞のデニス・メドーズ先生が、午前と午後の全体会で2回も登場し、さらに会議初日朝のオープニング全体会にも登場。SD学会のホームページでデニス・メドーズ先生の今年度日本国際賞の受賞が広報されたせいかわかりませんが、あたかもメドーズ・デーのような様相でした。SDモデルを構築する研究者・モデラーの「職業としての倫理観」、World3 成長の限界モデルから学ぶ知恵等、彼の哲学的な思索は傾聴に値しました。右の写真は、同先生(中央)がジャパンチャプターのポスターを訪れてくれたときのスナップです。左は内野先生、右が筆者。

今回も多岐の分野にわたり、活発な研究報告がなされたようですが、残念ながら私自身経済学チャプターの会長としての仕事(ポスター、総会・セッション司会、ボーナスデー等)で振り回され、じっくりと報告を聞いて回る時間的余裕がありませんでしたので、どのような分野のどのような研究がなされているのか、是非とも皆さんご自身でSDSのホームページでナビゲートください。

日本人の研究報告は以下の2論文でした。

- Logical vs Historical Time in A Price Adjustment Mechanism by Kaoru Yamaguchi
- Is Japanese Manufacturing Style (so-called Monozukuri) really robust? – A Causal Loop Diagram and Modeling Approach by Shiro Fukushima and Kaoru Yamaguchi

#### 討論分科会 (Discussant-type Session)

通常の1セッション3報告(各報告15分、質疑5分)に加えて、今回の新しい試みとして、1セッション2報告(各報告20分、討論10分)という討論形式の分科会が、主に SIG グループごとに水曜日午後2時から一斉に設定されました。あらかじめ討論者を決め、報告論文について修正、改良点を指摘・議論しあい、研究内容をより深化させようという趣旨です。

私は、住宅と銀行の危機という経済学チャプターのセッションをチェアとして担当。米国のサブプライム危機と韓国の住宅ローン規制緩和モデルの論文をあらかじめ指定し、討論者に事前に論文の精読をお願いして、討論いただきました。あたかも博士論文の公開審査討論のような場面もあり、建設的かつ大変有意義でした。終了後出席者に意見を求めましたが、おおむね好評でした。

#### 3. SD 普及 新時代の幕開け

今回の会議の研究報告で特筆すべきは、SD モデルのシミュレーションが、SD誕生から半世紀を経てやっと広く普及し始めて来ているという印象を得たということです。今年4月のメドーズ先生の日本国際賞受賞が象徴的な出来事かも知れませんが、そうしたまさに「SD 普及新時代の幕開け」と呼ぶにふさわしい研究報告を以下の3つの普及形態に分類して、事例紹介しておきます。

##### SD の普及その1: ロケットサイアンス、カオス・複雑系分野への浸透

今回主催者のサンディア国立研究所のロバート・グラス (Robert Glass) 博士が Pandemic Influenza and Complex Adaptive Systems of Systems (CASoS) Engineering というタイトルの研究報告をされました。新型インフルエンザが全米の地域でどのようにパンデミック的に蔓延してゆくのかを複雑系モデルでシミュレーションし、その効果的な対策を提案する内容でした。日本での学級閉鎖の事例も紹介され、非常に時宜を得たものでした。私はこの複雑系適応システム (Complex Adaptive System) という方法論に一種の郷愁を覚えました。というのも1993年から「未来志向複雑系適応研究 (Future-oriented Complexity and Adaptive Studies)」という国際セミナーシリーズを7年間にわたり日本で企画し、複雑系研究で世界的に有名なサンタフェ研究所からも数名先生を招待したことがあったからです(このセミナーが契機で私は SD に出会うことが出来ました)。ところがこの複雑系の研究手法は、SD の手法と異なるので、グラス先生は「私は SD の研究者ではありませんが」としきりに謙遜されました。それに対して MIT のスターマン先生がフロアから非常に印象深いコメントをされました。「複雑系の研究手法も SD の一部ですよ！」

この会議が契機で、物理学者等サンディア国立研究所のロケットサイエンティストの間で、SD への認知度が高まってきているそうです。事実、会場でお会いした数名の研究者も「目下 SD を学習中」と楽しそうに語ってくれ、SDの未来にとって明るい兆しだとの確信をえました。(余談ですが、会議終了後、列車で約1時間のところにあるサンタフェ研究所をセンチメンタルジャーニで訪れ、同研究所創設者で、原子力研究でも世界的に著名なジョージ・コーワン博士に10数年ぶりに再会してきました。今度生まれ変わるとすれば、Neuroscientist 神経科学者になりたいと語ってくれたのが印象的でした。)

##### SD の普及その2: SD シミュレーションゲームの社会的浸透

医療・福祉と地球温暖化問題は、今回の国内の衆議院選挙でも多くのマニフェストで取り上げられましたが、現在の世界が直面する非常に重要な政策課題です。こうした緊急に問題解決を迫られている分野で、SD シミュレーションゲームを利用した問題解決手法が開発され、SDのグルー

ブを越えて、徐々に社会に浸透しつつあるようです。

#### ・医療システム改革シミュレーションゲーム

まず、医療分野ですが、以下の研究報告で “HealthBound” という医療システム政策シミュレーションゲームが紹介されました。

HealthBound Policy Simulation Games: An Adventure in US Health Health Reform,  
by Milsterin, Homer and Hirsch

このゲームは、Health Policy SIG で活発に活動されているSDコンサルタントと米政府の医療行政の担当者が共同で開発したもので、公正さや費用の効率性等の観点から現行の米国に於ける医療システムを改革するための方策をシミュレーションしながら考察できるようになっており、すでに病院や、医療行政担当者で広く利用されはじめているそうです。詳細は同論文をウェブからダウンロード下さい。

#### ・炭酸ガス排出予測及び削減交渉ゲーム

次に地球温暖化問題ですが、以下の研究報告で、C-ROADS というゲームが紹介されました。C-ROAD とは “Climate Rapid Overview and Decision-support Simulator” の略で、地球温暖化の将来予測が、地球シミュレータモデルのようにスパコンを用いなくても遜色ない精度で簡単にでき、しかも温暖化の一因である炭酸ガスの削減交渉を国連等の国際政治の場で行う場合を想定しながら、プレイヤー自らが交渉に参加しその成果を即座に確認出来るというシミュレーションゲームです。

Using C-ROADS to Support Analysis of International Climate Change Proposals, by Andrew Jones, John Sterman, Thomas Fiddaman, Travis Franck, Elizabeth Sawin

このゲームは、MITのジョン・スターマン先生を中心に、米国の Sustainability Institute の研究者ら5名で共同開発されました。炭酸ガスの排出削減を論ずる場合に、ストックとフローの誤解が政治家、メディア、一般の間で蔓延しているということはSD研究者の間では周知の事実ですが、こうした誤解を解き放ち、地球温暖化の正しい理解のもとで、先進国や開発途上国が同じ土俵上で合理的な炭酸ガス排出削減交渉が出来るように意図されたゲームです。既に、国連関係者の間でプレーされ始めているそうで、その教育用簡易版が C-LEARN という名前でウェブ上で、誰でも無料でゲーム出来るようになっていました。以下のサイトにアクセスして、お楽しみ下さい。

<http://forio.com/simulation/climate-development/index.htm>

### SD の普及その3: 初等・中等教育への浸透

会議第4日目の午後3時から「システムダイナミクス・システク思考の K-12 教育現場で何が起きているか」といったテーマに絞った大ポスターセッションが開催されました。このポスターセッションは、12の展示テーマの内容を説明した独自のパンフレットも用意しており、かなり事前に準備されたもので、こんな大がかりで意欲的なものは今回が初めてです。小学5年生の児童が描いたシステム思考のお絵かきも数多く展示されており、マーケットでの商品の売買、お金のローン、エクソンの石油流出、エコロジーサイクル等多岐に渡るテーマで、キーワード5～6個を用いながら巧みに因果ループ図を作成しているのには感心させられました。また担任の小学校の先生の得意げな解説にも大変元気づけられました。1日のみの会議参加費は200ドルということですので、この日だけ参加された地元の学校の先生方もかなりいたようです。

高校3年生の SD モデルには、さらに驚かされました。ハイブリッドカーの市場性モデル、中国における持続可能な人口と農業のための水資源モデル、炭酸ガスと地球温暖化モデル等いずれも環境に関連したテーマを選び、きちんとシミュレーション分析をしていました。SD教育で著名なオ

レゴン州ウイルソン高校のダヤナ・フィッシャー先生から、彼女の数学の教室でピックアップされ、1年間指導いただいて作成したとのことです。

こうした米国における初等・中等教育の奥の深さに感心すると同時に、教育に携わるものとして、こうしたシステム思考でシステム武装できる若い世代を日本でも早く育てなければという思いに駆られました。

#### 4. ジェイ・フォレスター 賞

今年度は初めて該当者なしということでした。そのあたりの裏話を聞く機会は残園ながら得られませんでした。

#### 5. ボーナスデー

前述のように、今回は金曜日が1日ボーナスデーとして追加されました。参加したのは、経済学、環境、エネルギー、教育の各 SIG チャプターとコペンハーゲン気候変動演習と称する MIT のスターマン教授のグループでした。

経済学チャプターは、金融危機ラウンドテーブルというテーマでボーナスデーを開催しました。午前中はベルゲン大学(ノルウエー)のデービッド・ウィート教授と、私がそれぞれ別個に開発したSD マクロ経済モデルの概要を説明し、これを受けて午後は、今回の金融危機をマクロ経済モデルのフレームワークの中でどのように組み込んでモデル化し、その構造を解明してゆくかについて活発な議論が午後5時まで延々と行われました。

私はこのワークショップのチェアをしていましたので他のボーナスデーの内容は把握していませんが、後日、他の参加者から聞き及んだ話では、スターマン教授グループのワークショップは大変盛況で、約60名の参加があったそうです。事実、経済学チャプターの隣で開催予定の環境チャプターはキャンセルとなり、このワークショップに吸収されたようです。上述の C-LEARN モデルを用いて、参加者が先進5カ国、開発途上国、低開発途上国の3グループに分かれて、それぞれCO2 削減について熱い議論を戦わせながら交渉を進め、ゲームを展開していったそうです。今後こうしたSDゲームが教育現場で取り上げられるようになると、SD の方法論が一気に普及するのではといった明るい未来を予感させてくれました。

#### 6. チャプター・SIG 会合

今回は、7つのナショナル・チャプター及び4つのSIGが参加していました。私は多少遅れて参加したのですが、あまり活発な議論がなかったようです。論文の質をいかに高めるか、チャプター、SIG間のコラボレーションをどのように進めるかといったテーマが主で、前回のアテネのようなナショナルチャプターをどのように活性化するかといった議論はありませんでした。これといった中心テーマも定まらず、三々五々に閉会となり、学会のようなNPO活動におけるリーダー・リーダーシップの重要性を改めて認識しました。

最後になりましたが、来年度の第28回国際会議は、2010年7月25日から29日にかけてお隣の韓国ソウルにて、「Beyond the Crisis: Greening Economy, Society and Future」というメインテーマで開催されます。今からカレンダーチェックをして、来年度は大人数で参加しましょう。私は同会議の実行委員 (Program Co-Chair) に選任されて、その準備委員会に出席してきましたが、予算等ほとんど事務的な詰めのような内容ばかりで、ここで皆さんと共有すべきような情報はありませんでした。昨年度からの懸案事項である、アジア・太平洋地域のチャプター同士で、Asian/Pacific SD Forum を来年度の韓国の国際会議から実施してはという提案も現時点では進展がありません。

以上

## 5. 2010・2011 年度会長選挙結果の報告

### 5.1 次期会長選挙

#### (1) 次期会長候補の推薦期間とその結果

推薦期間: 2月1日～2月20日

被推薦者: 内野明(会員 専修大学商学部長・教授)

代表推薦人: 福田敦(日本大学理工学部 教授) ほか推薦人 12名

#### (2) 次期会長信任投票要領

①投票期間 3月6日～3月15日

②選挙方法

3月3日に JSD 事務局から有権者会員に選挙用紙を送付し、郵便により投票を実施した。

③開票と選挙結果の発表

JSD 理事会を 3月17日に開催し、開票作業を実施した。

3月18日に事務局より結果を公告MLにより発表した。

### 5.2 会長信任投票結果

#### (1) 投票資格者(有権者会員 1月31日現在の会員)

129名

#### (2) 開票結果

信任票 58票

不信任票 0票

無効票 0票

合計 58票

開票作業委員会としての理事会は上記により、内野明会員が次期会長として信任されたことを確認した。

## 6. JSD規約の改訂

JSD事務局の所在地を変更するので、JSD規約第15条(事務局)の内容を改訂し、付則を追加する。

### (1) 現状

第15条(事務局)

1 本会の事務局を下記に置く。

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12-104 藤和半蔵門コープ1F POSY Corp. 内  
システム・ダイナミックス学会日本支部事務局  
Tel&Fax 03-3512-5358

### (2) 改訂後

第15条(事務局)

1 本会の事務局を下記に置く。

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1  
日本大学理工学部社会交通工学科交通システム研究室内  
システム・ダイナミックス日本支部事務局  
TEL: 047-469-5355

付則

(11) 2010年4月24日一部改正: 第15条(事務局)の改訂

### 【結果】

次期会長の信任投票の結果が、“5. 2010・2011 年度会長選挙結果の報告”に沿って報告された。

事務局の住所変更に関する JSD 規約の変更が“6. JSD規約の改訂”に沿って提案され、満場一致で承認された。

以上の経過を受けて、森田会長は JSD 会長選挙に関する細則第2条4項に則り、内野明会員に次期会長の当選認定書を交付し、同5項に則り、新会長に権限を委譲した。

## 【結果】

ここで、議長が、森田道也前会長から内野明会長に代わった。

## 7. 新会長挨拶と2010年度本部人事案の提案

### 7.1 運営組織

会長：内野 明(専修大学)

副会長兼理事(総務担当;Executive Director): 福田 敦(日本大学)

国際担当理事(International Society Liaison):

JSD 研究会(首都圏)理事:

JSD 研究会(全国区)理事:

JSD 学会誌理事:

監事:

---

事務局: 福田 敦(事務局長)

理事・事務局担当幹事:

(HPの運営・管理)、(会計)、(会員管理・ML運営)、

(JSD研究会連絡)、(JSD研究会連絡)

### 7.2 顧問

### 7.3 担当幹事

事業推進上で担当理事を補佐する幹事を必要に応じて会長が任命し、その内容についてはJSDの公告MLで公開する。

## 8. 2010年度事業計画・予算案

### 8.1 立案から総会承認にいたるスケジュール

### 8.2 2010年度事業計画項目(2010年4月1日~2011年3月31日)

(1)JSD研究会 担当:

(2)学会誌の発行 担当:

(3)研究分科会の活動促進 担当:

(4)総会/カンファレンスの開催 担当:

(5)System Dynamics Society などでの国際交流の促進 担当:

(6)SDの普及のためのWeb公開など 担当:

(7)運営体制

### 8.3 2010年度予算案

## 9. その他

## 【結果】

内野会長から2ヶ月前後の内に役員人事と事業計画を、総会を開催して提案し、会員の承認を求めるとの説明があった。

また、今年度の総務担当理事・事務局長を福田敦会員に頼む積りであるとの説明があった。

いずれにせよ、人事案件を含めて2010年度の全ての総会承認案件は、今回の総会で提案されることはなく、従って、今総会で承認済みとなった事項はなかった。

## 【参考】

### システム・ダイナミクス学会日本支部 規約

#### 第1条 (名称)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部と称する。

#### 第2条 (目的および事業)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システム・ダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システム・ダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システム・ダイナミクスに関する調査研究
- (4) システム・ダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

#### 第3条 (会員構成)

- 1 本会は一般会員、学生会員、賛助会員および会友をもって構成する。
- 2 一般会員および学生会員は、本会の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 賛助会員は本会の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。  
なお、賛助会員は1口につき最大5名が一般会員として登録できる。
- 4 会友は国際交流の促進を図る目的で、本会の会長がシステム・ダイナミクス学会 (The System Dynamics Society) の会員の中から入会を招請したものを言う。

#### 第4条 (入会)

- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって本会の会長に申し出なければならない。
- 2 入会は理事会において承認し決定する。

#### 第5条 (会費)

本会の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

#### 第6条 (退会)

- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は本会の会長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1ヶ年以上におよぶときは原則としてその資格を失う。

#### 第7条 (役員)

本会に次の役員を置く。

会長 (President)	1名
副会長 (Vice-President)	3名以内
理事 (国際担当: International Society Liaison)	1名
理事 (総務担当: Executive Director)	1名
理事	10名以内
監事	2名

#### 第8条 (役員を選任)

- 1 会長は総会に先立つ一般会員、学生会員および賛助会員による選挙によって選出する。  
選挙細則は別途定める。
- 2 副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員の中から会友を除く出席者の過半数の賛成を得て選出する。

#### 第9条 (理事会)

- 1 理事会は役員をもって構成し、毎年の総会時および会長がその必要を認めたとき、または役員の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 理事会は、本会の活動を統括する。
- 3 理事会は、必要に応じて本会の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 4 会長が必要と認めたときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、会長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は2年とし重任を妨げない。

#### 第10条 (役員任期)

役員任期は2年とする。

#### 第11条 (顧問)

会長は、理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

#### 第12条 (総会)

総会は年1回以上開催し、役員を選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事項を承認する。

#### 第13条 (定足数)

総会の定足数は会員の3分の1以上、理事会の定足数は役員の2分の1以上とする。

#### 第14条 (会計年度)

会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日にいたる期間とする。

#### 第15条 (事務局)

- 1 本会の事務局を下記に置く。  
〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1  
日本大学理工学部社会交通工学科交通システム研究室内  
システム・ダイナミクス日本支部事務局  
TEL: 047-469-5355
- 2 事務局は理事 (総務担当) と幹事で構成し、理事 (総務担当) が事務局長を務める。

- 付 則 1 第10条の規定にかかわらず、支部発足時の役員の任期は1991年12月31日までとする。  
 2 本内規は1990年9月22日より発効する。  
 3 1991年7月22日一部改正                    4 1992年2月17日一部改正                    5 1995年3月13日一部改正  
 6 1996年3月29日一部改正                    7 2003年2月12日一部改正                    8 2004年1月31日一部改正  
 9 2005年4月2日一部改正  
 10 第14条の規定にかかわらず、2005年度会計年度は、2005年1月1日から2006年3月31日までとする。  
 11 2010年4月24日一部改正：第15条（事務局）の改訂

## システム・ダイナミックス学会日本支部 会長選出に関する細則

- 第1条 この細則は「システム・ダイナミックス学会日本支部規約」第8条に 定めた会長の選出に関する手続きを定めるものである。
- 第2条 会長の選出は次の各項による。
- 1 会長は一般会員と賛助会員に対して、文書またはそれに準じる方法によって次期会長候補の推薦を期末45日以前に、14日間の期間を設定して求める。
  - 2 5名以上の会員が推薦し、被推薦者が候補者となることを了承することにより、代表推薦人は会長に文書またはそれに準じる方法で、以下の内容を届出る。  
     推薦人：氏名、住所、所属、e-mail、電話、(代表推薦人マーク)  
     被推薦人：氏名、住所、所属、職位/資格、e-mail、電話、専門、略歴、  
                 JSD会長としての目標・抱負(400字以内)
  - 3 会長は規定の期間内に届出があった候補者に確認した上で、会長選挙を郵便により期末の14日以前に7日間の期間を設定して実施する。
  - 4 会長は会長選挙の結果を理事会で開封して集計し、第1位の候補に当選認定書を交付し、新役員候補の選定を促す。
  - 5 新年度の総会において会長は、新会長に権限を委譲する。

## 研究分科会の設立と運営に関する内規

1. 研究分科会が発足するまでのプロセス
  - ① 提案者：研究分科会の設立提案をサロン・メールで発信
  - ② 全会員：サロン・メールによる意見交換とメンバー募集
  - ③ 提案者：研究分科会の設立提案書を事務局までメールで送付
  - ④ 会長による承認
  - ⑤ 研究分科会活動開始
2. 諸規定
  - (1) 設立条件  
5名以上の会員をメンバーとして、代表者が提案し、その目的がJSDの活動主旨に沿い、JSDの研究・普及活動を活性化させる可能性が認められるとき、会長は研究分科会の設立を承認する。
  - (2) 参加資格  
研究分科会の活動に貢献するJSD会員は、いかなる研究分科会にも参加できる。
  - (3) 研究分科会の組織と運営  
分科会には主査と幹事をおき、事務局が設定した分科会専用のMLの管理も自主的に行う。
  - (4) 研究分科会の権利と義務
    - ① 分科会メンバーの変更があった場合には、速やかに事務局に届け出る。
    - ② 研究報告を研究会で発表するよう担当理事に求められた場合には指示に従う。
    - ③ 少なくとも年1回以上はJSD研究会等で発表する。
    - ④ 会議場、コピー代など研究分科会開催に必要な経費は、領収書とともに事務局に申請すれば支払を受けることができる。ただし、各研究分科会の上限は別に定める。
3. 研究分科会の設立申請様式  
メンバーリストを入力したExcelファイルと下記の申請内容を事務局メール宛に送付して申請する。  
事務局：jsd-office@yahooogroups.jp

-----  
 分科会設立申請書

下記の内容の研究分科会の設立を申請します。

申請日           ：  
 申請者           ：  
 名称             ：研究内容が推測できる研究分科会の名前  
 共同申請者      ：添付するExcelファイルに5名以上のJSD会員名を記載  
 趣旨             ：研究分科会を立ち上げる背景と狙い、参加メンバー利得、期待できる成果、等について具体的に記載  
 研究内容        ：研究対象、研究構成、研究内容、研究計画、等について具体的に記載  
 研究体制        ：研究組織、研究実施方法、打ち合わせ頻度・形式、作業分担方法、等についてできるだけ具体的に記載  
 -----

メンバーリストのExcelファイルには、代表世話人を含めて下記情報を記載。  
名前, e-mailアドレス, 所属機関名

## 編集委員会細則

- 第1条 (目的)  
当日本支部規約第2条に定める事業を行うために、編集委員会を設ける。  
編集委員会は、当日本支部で発行する学会誌の発行に関する諸事項の決定およびそれらの処理事項を実施する。
- 第2条 (委員会の構成)  
編集委員会の構成は次の通りとする。  
編集委員長 1名  
編集副委員長 1名  
編集委員 若干名
- 2 編集委員長と編集副委員長は当日本支部の会長が理事会メンバーの中から任命する。
- 3 編集委員は編集委員長が当日本支部の会員の中から委嘱する。
- 第3条 (委員の任期)  
編集委員長、副委員長、委員の任期は2年間とする。
- 第4条 (委員会の業務)  
委員長は編集委員会を招集し、次の事項を審議し処理する。  
①学会誌の投稿規定の策定と論文募集  
②学会誌研究論文の査読適格者の委嘱と投稿論文ごとの選任  
③学会誌の編集に関わる業務  
④学会誌の発行・送付に関わる業務
- 第5条 (委員会の報告)  
委員長は編集委員会の審議内容、業務遂行内容を理事会に適宜報告する。
- 付則 2005年12月24日から発行する。

## 学会誌研究論文査読規定

1. 審査の目的  
投稿された研究論文が当日本支部の学会誌に掲載するにふさわしいか否かを審査基準に基づき判断する。
  2. 審査基準  
投稿された研究論文は、以下の項目に照らして査読者が総合的に審査する。  
分野 : システム・ダイナミクスに関連した内容であること。  
論理性 : 論旨の展開が明快で、記述が簡潔・明瞭であること。  
新規性 : 内容に新たな知見が盛り込まれていること。  
信頼性 : 結論等を信頼するに値する客観的な考察が示されていること。  
有用性 : 得られた結論・経過が学術領域あるいは実社会において有用であること。
  3. 査読者  
編集委員会が指名する2名の査読者が審査基準に基づき審査にあたる。査読期間は編集委員会から送付されて2ヶ月以内とする。査読適格者の氏名は公開するが、個々の投稿論文も対する査読者の氏名は公開しない。査読者と投稿者との直接の接触は許容されず、必ず編集委員会を介する。
  4. 判定  
査読者の審査結果に基づき研究論文は以下のいずれかに判定される。査読者の意見が割れた場合には編集委員長がこれを決する。  
①そのまま掲載  
②指摘事項を修正したことを編集委員長が確認して掲載  
③再度査読者の審査が必要  
④掲載不可
- ②と判定された研究論文の投稿者には掲載条件が指示される。投稿者が指示に従い修正したことを編集委員長が確認すれば掲載に分類される。投稿者に異論がある場合には、論拠を編集委員長に文書でもって提出し、編集委員会で審議の結果、提出文書が適切であると判断されたなら掲載に分類される。修正が十分でなく、また異論根拠が文書で提出されない場合には④掲載不可に分類される。
- ③と判定された研究論文は、修正後に査読者により出版までの時間が許容する範囲内で審査する。時間切れの場合には、④掲載不可に分類される。

## メーリング・リストの使用手順

### 1. メーリング・リストの概要

メーリング・リストは Yahoo!グループのシステムを使用しています。現在、大きく分けて五種類のメーリング・リストを会員向けに運用しています。

メーリング・リストの種類

グループ	説明
jsd_from_office @yahoogroups.jp	JSDからの案内ML。日本支部主催の催し物、総会の案内等、公式の案内を配信するためのMLです。配信者は原則として事務局です。
jsd-renraku @yahoogroups.jp	事務局への連絡用ML。事務局へメールを送りたい場合は、このアドレスへ送信してください。
jsd-research-meeting @yahoogroups.jp	JSD研究会の開催通知の送付用ML。配信者は担当理事で、全会員に向けて送信されます。
jsd_salon @yahoogroups.jp	ディスカッション用ML。会員が全会員に向けて発信するためのMLです。会員の方であれば自由に配信することが出来ます。
jsdr_*** @yahoogroups.jp	分科会ML。分科会ごとのMLです。分科会内での議論、連絡等に使用します。

### 2. メールの送り方

メールは上の表の各アドレスを宛名としてメッセージを送信すれば、各メーリング・リストに登録されているメンバーへ一度にメッセージを送ることが出来ます。

例えば、jsd\_salon@yahoogroups.jp には全ての会員が登録されていますので、この宛先を指定すると、全会員へメッセージが送信されます。

セキュリティの関係で、**メールには原則としてファイルを添付できません**。添付ファイルはメール本文に含めるか、またはこの後に説明するウェブ・ページ内のブリーフ・ケースにアップ・ロードして、その旨を本文に記載し、読者がそのウェブ・ページを参照する形をとってください。

### 3. ウェブ・ページの利用

Yahoo!グループでは、各メーリング・リスト毎に専用のウェブ・ページが用意されています。そのページ上で過去のメッセージを確認したり、ブリーフ・ケースを利用したりすることが出来ます。

#### (1) アクセスの準備

ウェブ・ページの利用には Yahoo! Japan ID の取得が必要となりますので、お持ちでない方は登録をお願いいたします。登録画面へは、下記の Yahoo! グループのトップ・ページから入れます。

<http://groups.yahoo.co.jp>

#### (2) アクセス

Yahoo! グループを利用するには、上記のページを開いてください。各メーリング・リストに対応するウェブ・

ページのURLは、上記のURLの後ろに、/group/をつけ、

その後に、各メーリング・リストのアドレスをつけます。例えば、左の表の最上段に記載した事務局からの連絡用メーリング・リストの場合には、専用ウェブ・ページのURLは次のようになります。

[http://groups.yahoo.co.jp/group/jsd\\_from\\_office/](http://groups.yahoo.co.jp/group/jsd_from_office/)

#### (3) ログイン

専用ウェブ・ページのURLを直接入力するか、または、Yahoo!グループのページから下記の流れに沿って対応するページに入ります。

Yahoo! グループのページを開くと、右側に下図のような Yahoo! JAPAN ID とパスワード(\*)を入力する場所がありますので、それぞれを入力し、ログインボタンを押してください。



ログインした画面の右側に、自分が所属している Yahoo! グループの名前の一覧である "Myグループ" が表示されますので、開きたいページをクリックします。

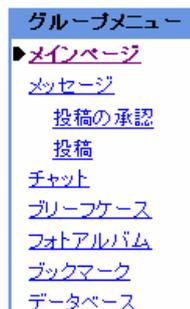
ウェブ・ページの構成の主なもの、トップ・ページであるメイン・ページとブリーフ・ケースです。ブリーフ・ケースでは、テキスト形式以外のデータもアップ・ロードして保管でき、ユーザーが自由にそのコンテンツをダウンロードできます。一方のメイン・ページでは過去のメールを確認できます。

#### (4) ブリーフ・ケース

事務局からの連絡用の(2)で例示したブリーフ・ケースには、JSD会員名簿、JSD総会資料、テキスト・データ以外のデータなどがアップ・ロードされ保管されています。

このようなアップ・ロードされているブリーフ・ケースのファイルを利用するには、まず利用したいファイルがアップ・ロードされているグループを選択します。

選択したグループのページに移ると下図のようなコンテンツのメニューが表示されますので、ブリーフ・ケースへのリンク行をクリックしてください。



#### (5) アドレス変更連絡のお願い

メールアドレスに誤りや変更があると返信エラーとなります。以後の送信が出来なくなります。**変更があるときには必ず連絡ください。**

## ■ ■ JSD 入会のご案内 と入会手続き ■ ■

2009年3月25日改定

システム・ダイナミクス学会日本支部(以後、JSD)は、国際学会であるシステム・ダイナミクス学会(以後、SDS)の日本支部です。JSDは学会誌の発行のほか、JSD研究会、研究分科会の開催など、会員の相互研鑽のための活動に取り組んでいます。

### § 会員資格と会費

下表の会員区分とそれに対応した会費を設定しています。

一般会員 : 年会費 5,000 円 システム・ダイナミクスに関心を持つ個人

学生会員 : 年会費 2,000 円 主たる所属が教育機関で、常時、学生資格を有する個人

賛助会員 : 年会費 50,000 円 SD研究と普及の趣旨に賛同し、JSDの活動を支援していただける団体

### § 会員への案内

会員への案内と相互情報交換には、メーリング・リストを利用しています。

### § 事務局

住所 : 〒102-0092 東京都千代田区隼町2031-12 藤和半蔵門コープ1F POSY Corp. 内

電話 : 03-3512-5358

事務局 E-Mail(入会の申込み宛先) : jsd-renraku@yahoo.co.jp

URL : [http://www.soc.nii.ac.jp/jsd/index\\_j.html](http://www.soc.nii.ac.jp/jsd/index_j.html)

## ■ JSD 入会の手続き

入会希望の方は下記項目(必須)をご記入の上、システム・ダイナミクス学会日本支部事務局へ、**メール添付ではなく、メール本文として**お送りください。理事会の承認後に、JSDの入会案内をお送りいたします。事務局で年会費の振込みを確認した時点で、入会の確定とさせていただきます。なお、2週間たっても振込みがない場合には、入会の承認を自動的に取り消すことをご了承ください。

**確認事項:** JSDはSDSの下部機関ですから、日本支部としての存続に必要な最小限な個人情報、SDSに送付する可能性があることをご了承ください。

システム・ダイナミクス学会日本支部会長殿

システム・ダイナミクス学会日本支部へ、(一般会員 学生会員)として入会を申し込みます。

注) 一般会員、学生会員的一方を残して他を消去して下さい。

(1) 氏名(漢字表記とアルファベット表記): 例名 太郎: Reimei, Taro

(2) 所属会社・機関名:

(3) メールアドレス:

(4) 郵送宛先住所

郵便番号(〒):

住所1(区市町番地):

住所2(ビル名):

住所3(所属先へ送付の場合には会社名など):

(5) 電話番号:

(6) 入会情報は何かから/どなたから、お聞きになりましたか?:

■ 初年度会費の入金日: 年 月 日(←必ずご連絡下さい。)

### § 会費振り込み郵便口座

2009年から、従来の郵便貯金口座に加えて、一般銀行形式の口座が開設されました。

一般銀行から振り込まれる場合には、下方の銀行形式の口座番号をお使い下さい。

いずれの場合にも、申し込まれる会員名が分かるように振込み者名を入力してください。

なお、郵貯銀行から振り込まれる場合には、郵貯銀行に備え付けの振込用紙をお使い下さい。

郵貯銀行からの振込口座 口座登録名 : システム・ダイナミクス学会日本支部  
(システム ダイナミクスが ッキアノソフ)

記号 : 10180 番号 : 52553581

他銀行からの振込口座 店名 : 〇一八(ゼロ イチ ハチ)

店番 : 018

預金種目 : 普通預金 口座番号 : 5255358